

肉用牛経営関係ヒアリング御協力者の概要

高橋畜産グループ たかはし 高橋 かつゆき 勝幸

高橋畜産食肉株式会社 代表取締役
 株式会社蔵王ファーム 代表取締役
 株式会社蔵王高原牧場 代表取締役



- ・所在地 山形県山形市
- ・設立年 1948 年
- ・労働人数 計 40 人（うち従業員計 36 人）
- ・飼養頭数 3,170 頭（うち和牛肥育 900 頭、交雑牛育成・肥育 1,400 頭、繁殖雌牛 520 頭、育成牛 350 頭）
- ・販売頭数 1,300 頭/年（うち和牛肥育 500 頭、交雑牛肥育 800 頭）
- ・ICT機器の活用 有（哺乳ロボット 9 台、自走式 TMR 給餌車 5 台）
- ・外部支援組織等の活用 有（山形県畜産協会）
- ・経営面積 (ha)

採草地	放牧地	飼料用米 (耕畜連携)	稲発酵粗飼料
51.7	20	50.9	5.5

(トン)

年間給餌量の内訳		粗飼料	濃厚飼料
自給 飼料	ロール（牧草）	33	—
	飼料用米	—	430
購入 飼料	ロール（稲わら）	880	—
	チモシー	560	—
	ホールクロップサイレージ	70	—

- ・経営の特色等

牛の生産から肉の卸、小売り、飲食まで一貫生産体制を構築している。
 蔵王牛・蔵王和牛 独自ブランド名を付けて全量自社流通経路で販売。
 一貫体制のあらゆる情報を一元管理している。

- ・その他

令和 5 年度 全国優良畜産経営管理技術発表会 最優秀賞（農林水産大臣賞・地方競馬
 全国協会理事長賞・中央畜産会長賞）受賞

山形県公正取引協議会会長

公益社団法人山形法人会副会長

山形県家畜商業協同組合専務理事

公益社団法人山形食品衛生協会理事 山形地区食品衛生協会副会長

繁殖から肥育・加工・販売まで一貫体制に
よる安全・安心な牛肉を提供
～創業から変わらない原点、それは牛への愛情～

株式会社蔵王ファーム（肉用牛一貫経営・山形県山形市）



牧場の元気を届けたい

高橋畜産グループ

会社創業の原点

○会社創業者の父が終戦後の食糧難を体験し
「元気と笑顔が出るには肉を食べるのが一番」



○昭和23年創業、翌年「高橋牛肉店」を開店



○「新鮮・美味しい・リーズナブルな牛肉を
届けたい」

⇒農場を所有し、繁殖から肥育までを一貫
した体制で生産することが必要！！



創業当時の「高橋牛肉店」



初代社長の牛肉販売の様子



経営の推移

昭和24年 先代社長の父が創業し、「高橋牛肉店」を開店
 昭和40年 山形市に肥育牛舎を建設し、黒毛和種の肥育経営(総称山形牛)を開始
 昭和55年 宮城県白石市に「宮城蔵王牧場」を開設し、繁殖及びホルスタイン種肥育を開始
 昭和60年 現社長が高橋畜産食肉(株)の牧場部門に法人就農
 昭和62年 ホルスタイン種肥育を交雑種(自社ブランド「蔵王牛」)に転換
 昭和63年 畜産部門が(有)蔵王ファームとして高橋畜産食肉(株)から独立
 平成13年 (有)蔵王ファームから宮城蔵王牧場が「(有)蔵王高原牧場」として独立、自社ブランド「蔵王牛」を商標登録
 平成17年 宮城県川崎町の牧場を取得し、「(有)蔵王高原牧場川崎育成牧場」開設
 平成18年 南陽市に「米澤農場」を開設し、産地ブランド「米沢牛」の肥育開始
 平成20年 南陽市に「米澤第2農場」を開設し、黒毛和種(米沢牛)肥育を規模拡大、山形市に「(有)蔵王ファーム山形第2農場」とし、黒毛和種(山形牛)を規模拡大、黒毛和種の自社ブランド「蔵王和牛」を商標登録
 平成22年 東日本大震災による東京電力の放射能事故で、宮城蔵王牧場及び川崎育成牧場の放牧の一時停止と飼養頭数の縮減、放牧地の除染を実施(H23～25)
 平成23年 平成26年 川崎育成牧場を黒毛和種の繁殖・育成専用牧場に、宮城蔵王牧場を黒毛和種及び交雑種の育成牧場に再編、「肉牛生産基盤安定化協議会」を組織し、耕畜連携による飼料用米生産開始
 平成27年 畜産クラスター事業等で哺育ロボット、繁殖・分娩・育成牛舎を整備し、繁殖牛500頭に規模拡大し、完全な繁殖・肥育一貫経営を実現
 平成30年 5農場全てで農場HACCP認証を取得、後継者が高橋畜産食肉(株)に入社し、令和3年から蔵王ファーム及び宮城蔵王牧場の専務として本格的に牧場運営に参加
 令和元年 「やさしいエコフィード協議会」を設立し、エコフィードのTMR給与を開始「山形蔵王牧場」がJGAP認証を取得
 令和2年 (有)蔵王ファーム及び(有)蔵王高原牧場が株式会社に改組
 令和3年 (株)蔵王ファーム米澤第2農場が農場HACCP認証を取得

経営の概要

労働力	家族	4人	本人、長男(後継者)、父、妹
	従業員	36人	2,000h換算26人
繁殖牛	成雌牛	512頭	黒毛和種
	子牛・育成牛	348頭	
肥育牛	黒毛和種	880頭	
	交雑種	1,410頭	
飼料生産	放牧地	20.0ha	
	採草地	51.7ha	
	飼料用米	50.9ha	耕畜連携
	稲発酵粗飼料	5.5ha	

生産から販売までの一貫生産体制(T1システム)

(株) 蔵王ファーム

【繁殖】

川崎育成牧場



【肥育】

宮城蔵王牧場
山形蔵王牧場
山形第2農場
米澤農場/米澤第2農場



【カット・卸】

山形
ビーフセンター



【加工・卸】

蔵王高原
ミートファクトリー



【小売】

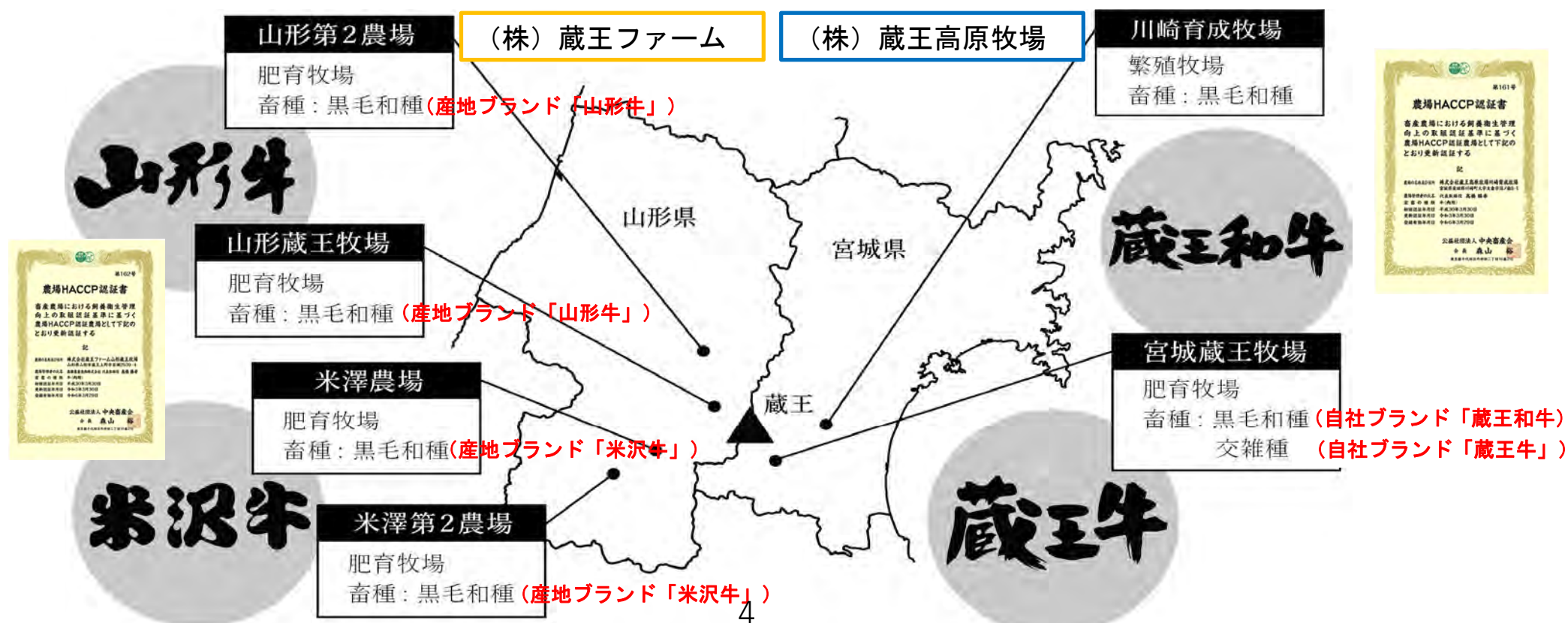
moh'z
元気市場たかはし
上町店



食卓へ



牛肉のブランド化の取り組み



理想的な牛肉づくりの取り組み ～アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境～



JGAP認証



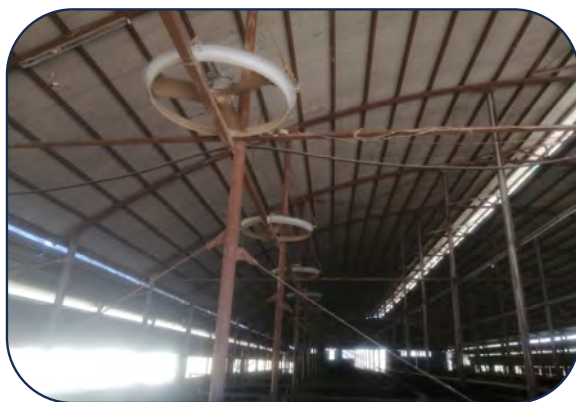
広々とした牛房



子牛の保温対策



カーフジャケット



牛舎の環境改善



鼻環の廃止



牧場の元気を届けたい

高橋畜産グループ

理想的な牛肉づくりの取り組み ～データに裏付けられた質の高い牛肉～

黒毛和種及び交雑種の上物率の推移 (単位%)

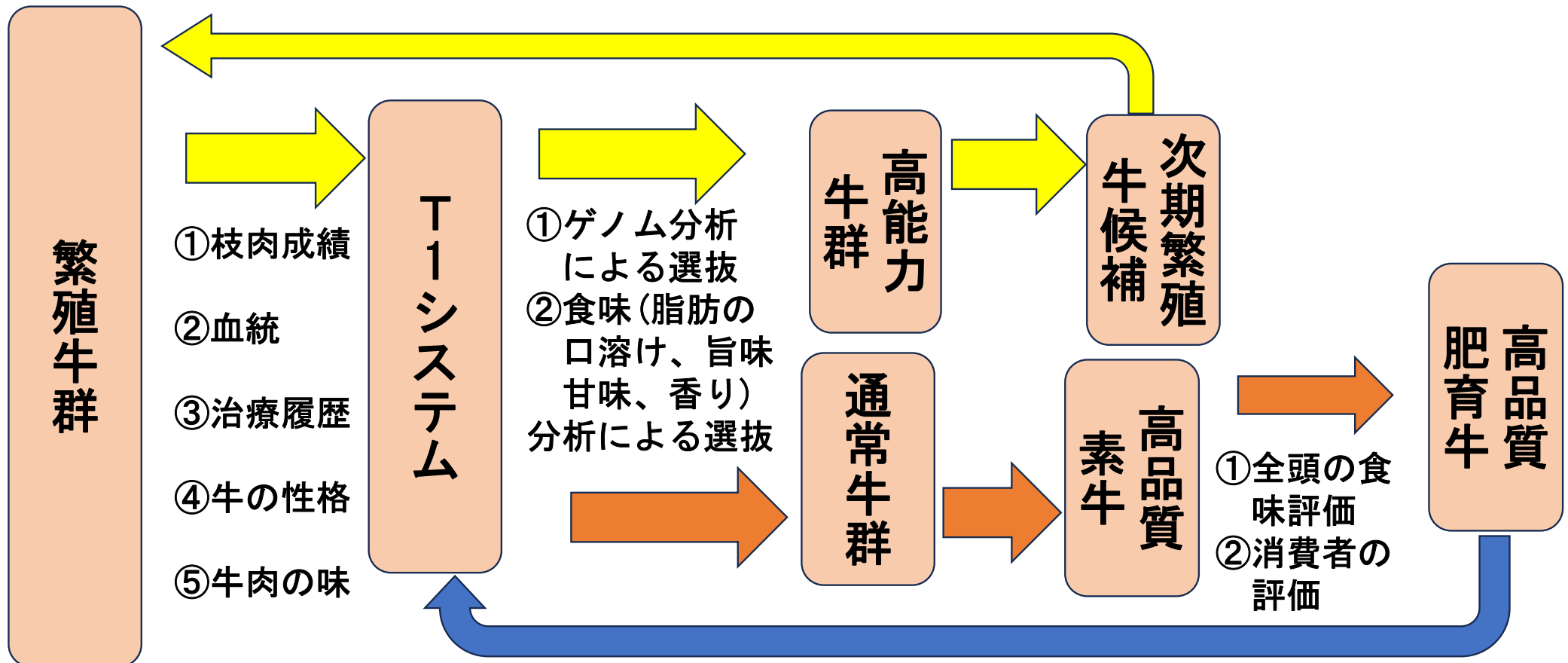
品種	性別	区分	R2年	R3年	R4年
黒毛和種	雌	全国	67.2	69.1	70.4
		山形県	84.1	87.0	88.5
		蔵王ファーム	86.4	96.0	98.0
	去勢	全国	87.6	89.5	91.5
		山形県	92.5	94.4	95.8
		蔵王ファーム	89.5	97.6	99.2
交雑種	雌	全国	19.3	22.0	24.6
		宮城県	15.1	19.6	21.9
		宮城蔵王牧場	15.0	21.4	28.6
		宮城蔵王牧場	15.0	21.4	28.6
	去勢	全国	21.2	22.3	24.4
		宮城県	21.2	26.3	27.4
		宮城蔵王牧場	19.5	26.6	33.5

牛肉の食味成分分析 (令和3年)

区分	品種	性別	甘い香り: 強める			甘い香り: 弱める	旨味成分	脂肪の口溶け
			6炭糖 グルコース、フルクトース	5炭糖 リボース、アビノース	グリセロール、イノシトール	カルボシアンセリントウリン	ヒポキサンチンイノシンイノシン酸	不飽和度
蔵王ファーム	黒毛和種	去勢	4.18	0.37	4.21	10.1	3.06	1.81
		雌	4.59	0.31	3.63	10.5	2.96	1.92
	交雑種	去勢	3.46	0.23	3.50	10.8	2.96	1.60
		雌	3.72	0.26	3.37	11.6	2.96	1.95
	経産牛	雌	4.24	0.42	4.04	12.1	3.58	1.65



理想的な牛肉づくりの取り組み ～独自開発の畜産DXで繁殖牛群の改良～



飼料高騰対策

1. チモシー乾草（米国産）

- ・ 自家産チモシー乾草（コントラクター活用）
- ・ 国内産に一部変更

2. アルファルファ乾草

（米国産）

国産オーチャードグラスに変更

3. ライグラスストロー

（米国産）

国産稲わらに変更

（耕畜連携）

4. 飼料用イネ

- ・ 飼料用米の給与割合の増加（耕畜連携）
- ・ 稲発酵粗飼料（耕畜連携）

5. エコフィード

種類の増加による
給与割合の拡大

6. 配合飼料

同一成分製品への変更
による価格の見直し

7. 肥育前期の飼料給与

肥育前期（8～12か月令）を
1か所でTMR飼料により低
コストで飼養管理

国産飼料自給率

重量割合：41.0%、TDN：28.5%

飼料費の削減

飼料生産費：44.6円/kg



牧場の元気を届けたい

高橋畜産グループ

未利用資源を活用した飼料高騰対策

やさしいエコフィード協議会

製造等の指導

○肥育農家(福島県)

○飼料製造業者
(山形県天童市)

○県村山総合支庁
(山形県山形市)

国産飼料

乾草：国内産チモシー、オーチャードグラス

飼料用米：耕畜連携

稲わら：耕畜連携

大麦：規格外

国産飼料(未利用)

大麦(山形県天童市)

大豆(山形県天童市)

飼料化施設・利用牧場

(株)蔵王高原牧場
宮城蔵王牧場
川崎育成牧場

エコフィード

ビール粕

モルトサイレージ

ウイスキー粕

ウイスキーソリュブル

酒粕

アミノ酸ケーキ

りんご粕

きのこ粕

メイズ粕

ホミニーフード

大豆ミール

バガス

9

国産飼料の使用割合及びTDN自給率の推移

区 分	R元年		R2年		R3年		R4年	
	種類	割合	種類	割合	種類	割合	種類	割合
国産飼料	3	13.4	3	10.2	3	11.7	5	14.2
エコフィード	13	23.2	14	24.8	14	24.2	12	24.1
海外原料飼料	12	63.5	12	65.0	11	64.1	14	61.7
国産割合※	16	37.4	17	36.4	17	39.2	17	41.0
TDN自給率	26.3		26.2		28.8		28.5	
kg当たり単価	33.9		33.9		36.6		44.6	

※:重量ベースの国産割合



牧場の元気を届けたい

高橋畜産グループ

畜産DXの取組み

独自プラットフォームの活用による労働時間の削減

業務	導入前 (分/月)	導入後 (分/月)	削減率 (%)
出荷報告書作成	380	40	89.5
牛の移動報告書作成	310	20	93.5
切迫、死亡報告書作成	60	5	91.7
牛舎管理台帳作成、 編集	20	5	75.0
発育データ作成	80	20	75.0
その他の業務 (12業務)	740	165	77.7
合計	1590	255	84.0

LINE WORKS 掲示板

5月26日ト畜 蔵王ファーム

丹野清美 投稿日時: 2023.5.29.10:22 閲覧: 37

編集を許可: OFF (投稿の作成者および掲示板マスターのみ編集可能)

コピー 翻訳 印刷

添付ファイル 10 枚 (21.6MB)

確認をお願いいたします

プレビュー (10枚の画像があります。)

IMG_1631.JPG IMG_1636.JPG IMG_1652.JPG IMG_1658.JPG IMG_1672.JPG

IMG_1679.JPG IMG_1689.JPG IMG_1712.JPG IMG_1717.JPG IMG_1725.HEIC

© WORKS 10 Corp.

SDGsの取組み

開発目標	畜産に関連する項目	蔵王ファームにおける取組み
目標1（貧困）	・ トレーサビリティシステムや流通改革、6次産業化推進による高付加価値化による畜産業者の収入と雇用増	・ 生産から販売までの一貫体制を確立するとともに、生産した牛肉を原料としてグループ会社で加工品製造を通じて6次産業推進による高付加価値化を推進し、収入増と雇用の拡大に貢献
目標2（飢餓）	・ 自給飼料と未利用資源の飼料化で食料自給率の向上	・ 牧草や飼料用米及び稲わらの飼料利用による循環型農業とビール粕、ウイスキー粕、メイズ粕、酒粕及びアミノ酸ケーキなどの未利用資源の飼料化による食料自給率の向上を推進
目標3（保健）	・ 高品質な食品・畜産物を安定供給	・ 農場HACCP及びJGAPの認証を受けた農場で生産した高品質な牛肉の安定供給に努めている
目標5（ジェンダー）	・ 畜産における女性が活躍できる環境づくり	・ 女性専用の休憩室の整備や力が非力でもできる仕事の間（子牛の哺乳・育成管理、人工授精、ショベルオペレーション）を拡大し女性が働きやすく、活躍できる環境づくりの取組み
目標6（水・衛生）	・ 適切なふん尿処理による環境水の汚染防止	・ 堆積方式及びハウス式攪拌強制発酵方式による高品質堆肥製造とほ場還元利用により汚染防止の取組み
目標7（エネルギー）	・ 家畜糞尿を活用したバイオマス発電へのチャレンジ	・ 他企業と共同による肉牛の糞尿を活用したバイオ発電の取組み
目標8（経済成長と雇用）	・ 安全かつ生産的で働きがいのある職場づくり	・ JGAP導入によりリスク管理を行い、事故を未然に防ぐ取組みを実践 ・ 働き方改革を推進させ、しっかり休める体制と長時間労働をしなくても良い仕組みづくり ・ 頑張った分だけ報われる人事考査や給与・賞与体系を構築
目標9（産業と技術革新）	・ 技術革新、T1システムの分析で能力の高い子牛づくりにチャレンジ	・ 特定の種雄牛に偏らない消費者が好む良い牛がつけられる仕組みづくり
目標12（持続可能な生産と消費）	・ 安全安心な畜産物の生産 ・ 生産後の食料の損失を減少させる	・ 農場HACCP導入で、危害要因である薬剤と注射針の管理の徹底 ・ 国産飼料を高め、飼料原料の生産工程の見える化及び地産地消化 ・ 配合飼料に抗菌抗生剤・ホルモン剤無添加の実施
目標13（気候変動）	・ 家畜飼養・ふん尿処理・飼料生産における地球温暖化ガス排出の低減の取組み	・ ふん尿（約3.5t/日）を利用したバイオマス発電の実用試験により地球温暖化ガス排出の低減の取組み

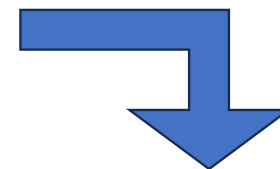
環境保全の取組



良質堆肥
の供給



牛ふんの供給



良質粗飼料
の給餌

循環型
農業

耕種農家
での利用

バイオ
マス
発電



飼料用米・稲
わらの購入

12



牧場の元気を届けたい

高橋畜産グループ

働きやすい職場づくり、女性の活躍



ジョブローテーション



働きやすい職場づくり



自動給餌機の導入による
重労働の軽減

女性のアイデア



手づくりのカーフハッチ
13

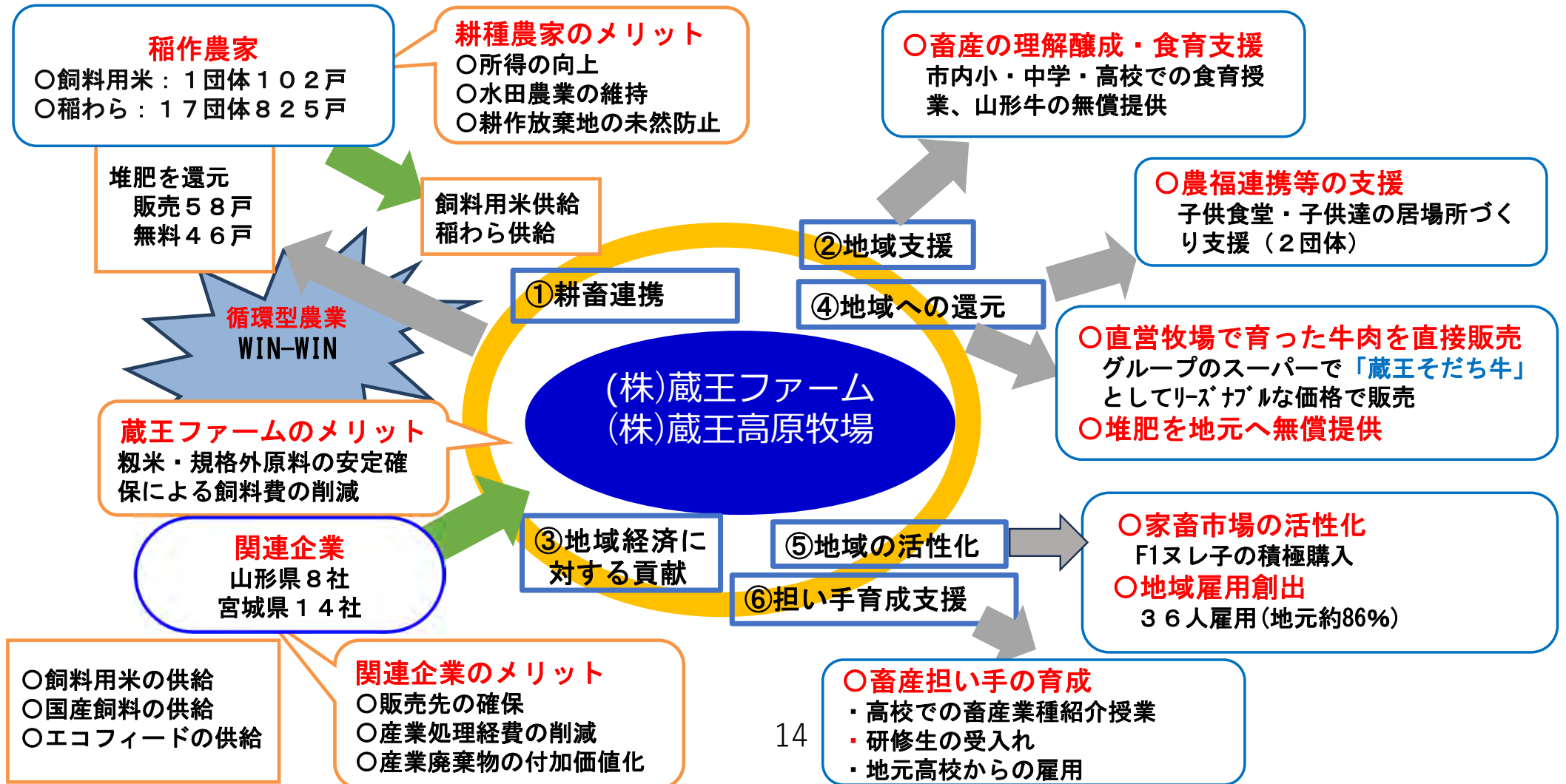


自社加工品の開発



牧場の元気を届けたい
高橋畜産グループ

地域に対する貢献



消費者が食べたいお肉

➡ 赤身の美味しい肉

現状 A5が50～60%と脂が多すぎる

脂肪割合 昔 40% ➡ 60%以上

A5の価格が高い理由

ロース、肩ロース以外は使いやすい

A5のアピールができる

生産者は市場売りするならA5を目指すしか無い



早期出荷

■ メリット

- ・ 牛舎の回転が良くなる → 売上アップ
- ・ 1頭あたりのコストダウン

■ デメリット

- ・ 市場評価が下がる
- ・ 味への影響



交雑種の生産

メリット

- ・ 小売業者が取り扱いやすい価格
- ・ 消費者も買いやすい

デメリット

- ・ 同じ飼料で肉のkg単価が低い
- ・ 上物を作っても単価は伸びない
- ・ 子牛の出荷頭数が不安定



解決策①

ブランド化を図る 生産と流通の連携

- ・ 問屋、小売店（量販店）と連携する
- ・ 再生産できる価格で買っていただく
- ・ 市場売りはしない



解決策②

和牛輸出の促進

脂の多い ロース・肩ロース等を輸出
和牛は海外ではとても人気 まだまだ伸びるマーケット

その為には、認定と畜場の無い地域はその整備が求められる

地域の方だけでは難しい（予算的に）

→ 国の支援が必要



ご清聴ありがとうございます。

